

安全・良質な医療でチーム医療に貢献

臨床工学室 室長 岡山 潤



令和6年4月1日に臨床工学室室長を拝命いたしました。

臨床工学技士は医療技術提供を行う臨床業務と、医療機器の保守管理を行う工学的業務の2つの異なる技能を持つ職種です。

当院臨床工学室は、血液浄化部門・機器管理部門・手術室部門・循環器部門の4つの部門で構成しており、各部門に責任者を配置しローテーションで業務を行っております。

血液浄化部門では、血液を体外循環させ体内不要物質や病因物質の除去を行う業務を行っております。また、機器管理部門では、医療機器管理台帳の整備、保守点検の計画および実施、適正な使用方法の教育、各種医療機器の中央管理を行い安全で効率的な運用を行う業務を、循環器部門では、循環器疾患における詳細な病態の把握や心機能を評価する診断装置の操作および、ECMOを用いた

補助循環を行う業務を行っております。4月より新たに立ち上げた手術室部門では、医療用ナビゲーションシステム、手術支援ロボット (Da Vinci Xi) 等の手術関連機器の操作および保守点検業務を行っております。

今年度新卒採用者2名を加え、男性6名女性2名の計8名のスタッフで医療機器の故障、質問等に24時間対応できる体制を取っております。

「安全・良質な医療でチーム医療に貢献」を目標に、各種専門認定士資格を取得し、専門性の高い技術・知識を提供し、医師や看護師をはじめとした多職種のスタッフとともにチーム医療に貢献していけるよう、臨床工学室スタッフ一同、これまで以上に業務に邁進してまいりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

POCTについて

臨床検査室 課長 村上 弘幸



POCT (point of care testing : 臨床現場即時検査) という言葉をご存じでしょうか。ガイドラインでは「POCTとは、被検者の傍らで医療従事者 (医者や看護師等) 自らが行う簡便な検査である。医療従事者が検査の必要性を決定してから、その結果によって行動するまでの時間の短縮および被検者が検査を身近に感ずるという利点を活かして、迅速かつ適切な診療・看護、疾病の予防、健康の増進等に寄与し、ひいては医療の質、被検者のQOLおよび満足度の向上に資する検査である」と定義づけられています。

当院でも、COVID19 抗原検査をはじめ、18種類の抗体定性検査キットを使用しています。また、検査室にはハンディ型の血液ガス分析装置や小型の分析機もあり、更にICUや手術室に血液ガス分析装置、病棟にグルコース測定装置など、いくつかのPOCT対応検査が実施されています。

POCT 対応検査はそのほとんどが、操作性が簡便かつ小型であり、誰でもどこでも検査することが可能です。それにより災害や救急の現場でも有用で、現場で即時結果が出るため、診察までの時間短縮になります。また、少量の検体で検査出来るものが多く、患者さんの侵襲が少なく負担も軽くなります。

今後はアップルウォッチのよ

うな小型化や軽量化されたウェアラブルデバイスが増加し、それを用いて医療者のみならず一般の人自身が生体データをモニタリング出来るようになり、健康増進、予防医療へと繋がって行くことが期待されています。検査室としても、環境の変化に柔軟に対応し、正しい情報を発信していくことが重要であると考えています。



ICU 血液ガス分析装置 (ABL90 FLEX)

わずか65μLの血液サンプルから、血液ガス、電解質、代謝項目、オキシメトリーなど重要な17パラメーターを35秒で測定。POCTの代表機器として緊急性の高い治療現場に設置されている。



左：血液ガス分析装置 (NXS ホスト搭載エポック) 13項目を1分以内に測定できる。

中：グルコース分析装置 (グルテストミントII) 患者血液 (全血) 中のグルコース濃度を測定する。

右：新型コロナウイルス抗原定性検査キット (イムノエース® SARS-CoV-2 II)

新型コロナウイルス感染症について10分ほどで判定結果が出る。